

平成22年3月期  
決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～  
<http://www.transgenic.co.jp>

2010年5月26日  
株式会社トランスジェニック

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。



## I. 平成22年3月期決算概要

1. 事業部門別業績概要
2. 連結決算ハイライト

## II. 平成23年3月期基本方針と連結業績予想

1. 平成23年3月期基本方針
2. 平成23年3月期連結業績予想

## III. 研究開発状況

1. 研究開発戦略
2. 開発パイプライン状況
3. 開発パイプライン - 膵がんマーカー



# I .平成22年3月期 決算概要



# 1. 事業部門別業績概要

## 業績概要：遺伝子破壊マウス事業

## 売上高増・経費削減により損益大幅改善（黒字転換）

単位：千円	H21.3	H22.3	増減額	増減率
売上高	145,236	190,326	45,090	31.0%
売上原価	91,944	104,450	12,506	13.6%
売上総利益 (粗利率)	53,292 (36.7%)	85,876 (45.1%)	32,584 (72.2%)	61.1%
研究開発費	33,906	13,492	▲20,414	▲60.2%
販売管理費	57,147	36,287	▲20,860	▲36.5%
営業利益	▲37,762	36,096	73,858	—

1. 売上拡大に伴う利益率改善
2. 上記1. と経費の徹底削減により73百万円の損益改善を達成
3. 更なる販路拡大と作業の効率化が課題

## 受託事業抑制 & 開発コスト負担により損失増加

単位：千円	H21.3	H22.3	増減額	増減率
売上高	80,629	51,353	▲29,276	▲36.3%
売上原価	14,397	4,441	▲9,955	▲69.2%
売上総利益 (粗利率)	66,232 (82.1%)	46,911 (91.4%)	▲19,321 (65.9%)	▲29.2%
研究開発費	82,046	125,295	43,249	52.7%
販売管理費	43,987	21,188	▲22,799	▲51.8%
営業利益	▲59,801	▲99,571	▲39,770	—

1. 売上減少は、受託事業の抑制に起因
2. 自社製品開発・がんマーカー開発に注力した結果、研究開発費増加
3. 上記1. 2の結果、抗体事業の損失は増加
4. 利益創出の研究開発戦略が課題

# 業績概要：試薬販売事業

## 売上高増・経費削減により損益大幅改善（黒字転換）

単位：千円	H21.3	H22.3	増減額	増減率
売上高	67,243	92,058	24,815	36.9%
売上原価	33,007	41,730	8,723	26.4%
売上総利益 (粗利率)	34,236 (50.9%)	50,327 (54.7%)	16,091 (64.8%)	47.0%
研究開発費	131	4,479	4,348	3,319.1%
販売管理費	93,629	40,460	▲53,169	▲56.8%
営業利益	▲59,524	5,386	64,910	—

1. 売上増加の主要因は営業努力によるプライムーン社の商品販売拡大
2. 上記1及び経費削減により黒字転換を達成
3. 更なる営業強化による販路拡大が課題

## 天候不良影響により売上減少

単位：千円	H21.3	H22.3	増減額	増減率
売上高	—	221,251	221,251	—
売上原価	—	185,486	185,486	—
売上総利益 (粗利率)	— (—)	35,764 (16.2%)	35,764 (16.2%)	— (—)
販売管理費	—	97,782	97,782	—
営業利益	—	▲62,017	▲62,017	—

1. 主力製品であるベビーリーフが、悪天候のため生産量減少
2. 生産量減少に伴い喪失した市場回復の遅延
3. 上記1. 2により、売上減少



## 売上高増・経費削減により損益大幅改善(黒字転換)

単位:千円	H21.3	H22.3	増減額	増減率
売上高	31,755	48,996	17,241	54.3%
売上原価	14,512	37,101	22,589	155.7%
売上総利益 (粗利率)	17,243 (54.3%)	11,895 (24.3%)	▲5,348 (-)	▲31.0%
研究開発費	0	0	0	-
販売管理費	21,945	1,222	▲20,723	▲94.4%
営業利益	▲4,702	10,673	15,375	-

1. 海外代理店業務が順調に推移
2. 経費削減により損益大幅改善
3. 更なる営業強化による販路拡大が課題

# 全社的コスト削減

TG社・PRM社で目標2億円に対し、3億円削減を達成

単位:千円	H21.3	H22.3	増減額	増減率
役員報酬	102,135	34,844	▲67,291	▲65.9%
販売・管理部門人件費	191,172	130,901	▲60,271	▲31.5%
販売・管理部門経費	295,746	185,033	▲110,713	▲37.4%
研究開発費	206,126	143,266	▲62,860	▲30.5%
合計	795,181	494,046	▲301,135	▲37.9%

※TG社・PRM社の連結数値

1. 役員報酬等の大幅削減
2. 販売管理経費の検証および削減実行
3. 研究開発テーマの選択と集中による絞り込み



## 2. 連結決算ハイライト

## 業績概要:セグメント情報

## 平成21年3月期セグメント情報

単位:千円	マウス	抗体	試薬販売	食品	その他	管理	連結
売上高	145,236	80,629	67,243	—	31,755	0	324,865
営業費用	182,998	140,431	126,767	—	36,458	462,387	949,043
営業利益	▲37,762	▲59,801	▲59,524		▲4,702	▲462,387	▲624,178



## 平成22年3月期セグメント情報

単位:千円	マウス	抗体	試薬販売	食品	その他	管理	連結
売上高	190,326	51,353	92,058	221,251	48,996	0	603,985
営業費用	154,229	150,925	86,671	283,268	38,323	275,769	989,187
営業利益	36,096	▲99,571	5,386	▲62,017	10,673	▲275,769	▲385,201

## 平成22年3月期連結決算ハイライト

※参考

単位:千円	H21.3	H22.3	増減額	H22.3 TG,PRM
売上高	324,865	603,985	279,120	382,734
遺伝子破壊マウス事業	145,236	190,326	45,090	190,326
抗体事業	80,629	51,353	▲29,276	51,353
試薬販売事業	67,243	92,058	24,815	92,058
食品事業	—	221,251	221,251	—
その他事業	31,755	48,996	17,241	48,996
売上原価	153,861	373,210	219,349	187,724
売上総利益	171,003	230,775	59,772	195,011
販売費及び一般管理費	795,181	615,977	▲179,204	494,048
うち研究開発費	206,126	143,287	▲62,839	143,266
営業損失	▲624,178	▲385,201	238,977	▲299,037
経常損失	▲605,285	▲389,603	215,682	▲277,080
当期純損失	▲634,877	▲579,034	55,843	▲271,769



## Ⅱ.平成23年3月期基本方針と連結業績予想

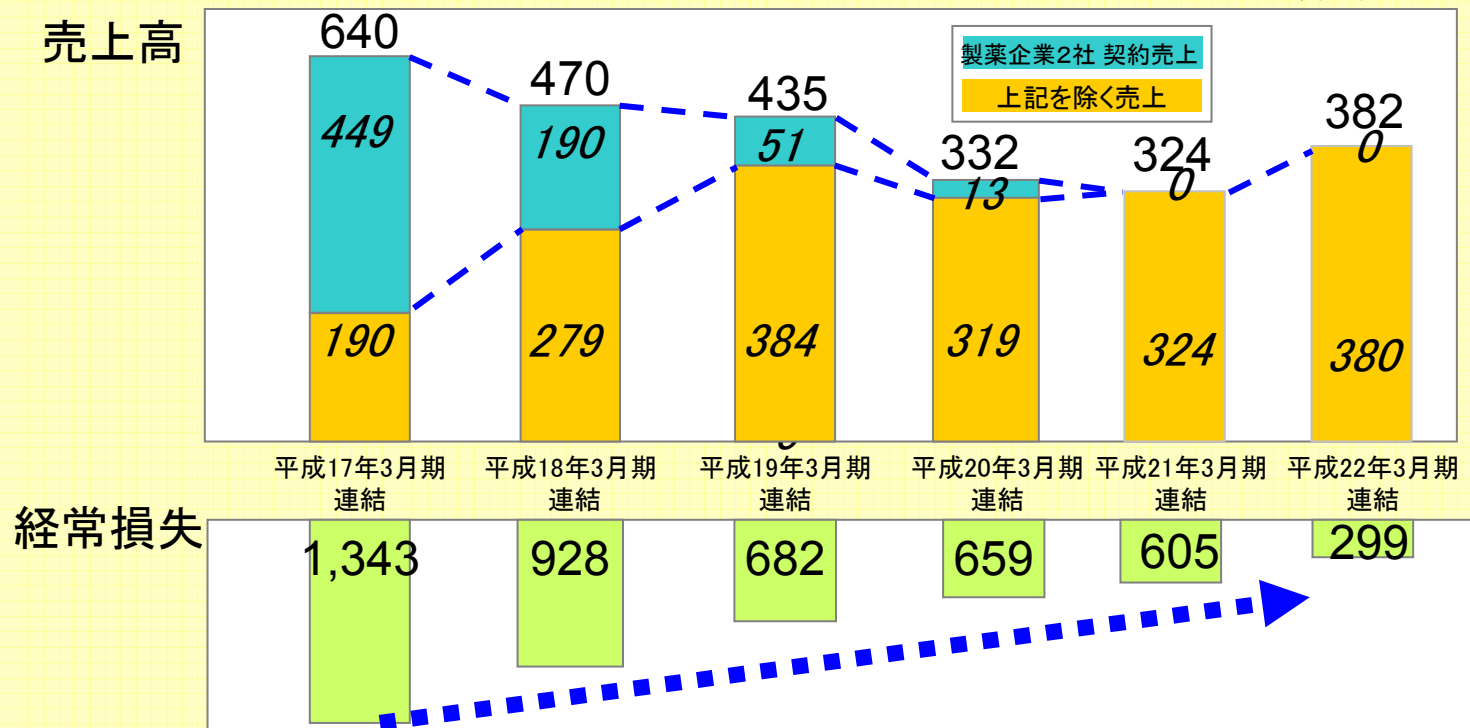
# 平成22年3月期までの損益構造変遷



1. 平成21年3月期: 売上減少、損益改善
2. 平成22年3月期: 黒字化のためには、売上拡大が必須
3. 平成23年3月期: 黒字化を短期的視野に捉えるため収益基盤確立

## 平成22年3月期までの業績推移(食品事業を除く)

単位: 百万円





## 平成22年3月期の総括

- TG社の強い分野への経営資源の集中により、損益大幅改善
- 抗体事業において、膵がんマーカ一等のバイオマーカー開発が進捗
- マウス事業、試薬販売事業、その他事業は収益を確保



## 平成23年3月期の基本方針

1. 事業の選択と集中により、遺伝子破壊マウス事業、抗体事業、試薬販売事業を基幹事業と定め、経営資源を集中する
2. 遺伝子破壊マウス事業と試薬販売事業は、更なる営業強化を図る
3. 抗体事業は、収益基盤を強化するため受託を再開する



# 新年度計画立案の流れ



## 平成21年3月期セグメント情報

単位:千円	マウス	抗体	試薬	その他	管理	連結
売上高	145,236	80,629	67,243	31,755	0	324,865
営業費用	182,998	140,431	126,767	36,458	462,387	949,043
営業利益	▲37,762	▲59,801	▲59,524	▲4,702	▲462,387	▲624,178

改善

## 平成22年3月期セグメント情報

果実堂はH21.7月より連結対象

単位:千円	マウス	抗体	試薬	その他	管理	TG-PRM	果実堂	連結
売上高	190,326	51,353	92,058	48,996	0	382,734	221,251	603,985
営業費用	154,229	150,925	86,671	38,323	251,623	681,771	307,414	989,187
営業利益	36,096	▲99,571	5,386	10,673	▲251,623	▲299,037	▲86,163	▲385,201

加速

## 新年度経営計画

単位:千円	マウス	抗体	試薬	その他	管理	連結
売上高	307,000	96,000	110,000	セグメント 区分の変更 マウス事業へ	0	513,000
営業費用	192,000	104,000	100,000		215,000	611,000
営業利益	115,000	▲8,000	10,000		▲215,000	▲98,000

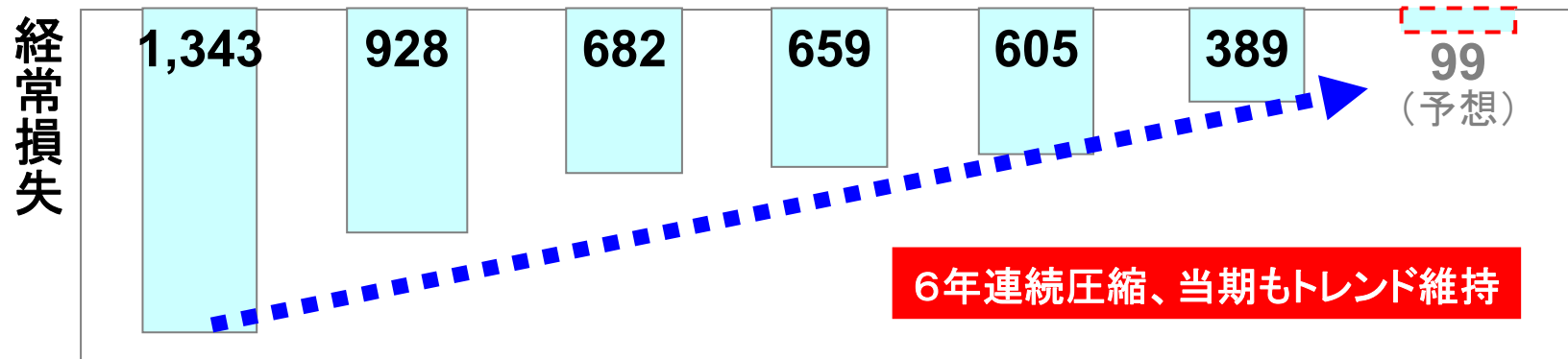
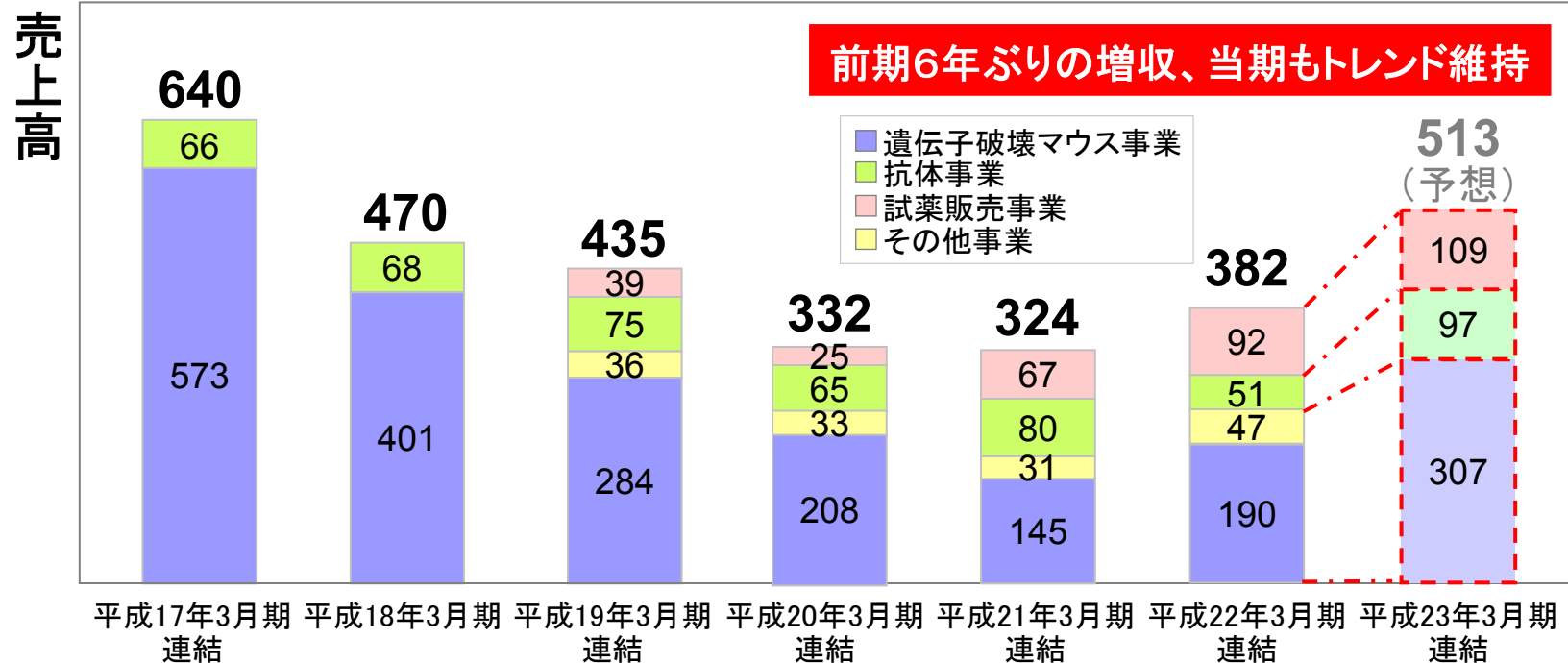
黒字化へ

## 平成23年3月期連結業績予想

単位:千円	H22.3 (実績)	H23.3 (予想)
売上高	603,985	513,000
遺伝子破壊マウス事業	190,326	307,000
抗体事業	51,353	97,000
試薬販売事業	92,058	109,000
食品事業	221,251	—
その他事業	48,996	—
売上原価	373,210	247,000
売上総利益	230,775	266,000
販売費及び一般管理費	615,977	364,000
うち研究開発費	143,287	54,000
営業利益	▲385,201	▲98,000
経常利益	▲389,603	▲99,000
当期純利益	▲579,034	▲105,000

# 平成23年3月期連結業績予想(食品事業を除く)

単位:百万円





## Ⅲ.研究開発状況

## 短期

新規技術  
開発関連

- 外部研究機関による抗体の性能評価を行い、高品質の抗体を提供する
- 抗体受託を再開するにあたり、サービス内容を拡充

## 中期

新規バイオマーカー  
の探索関連

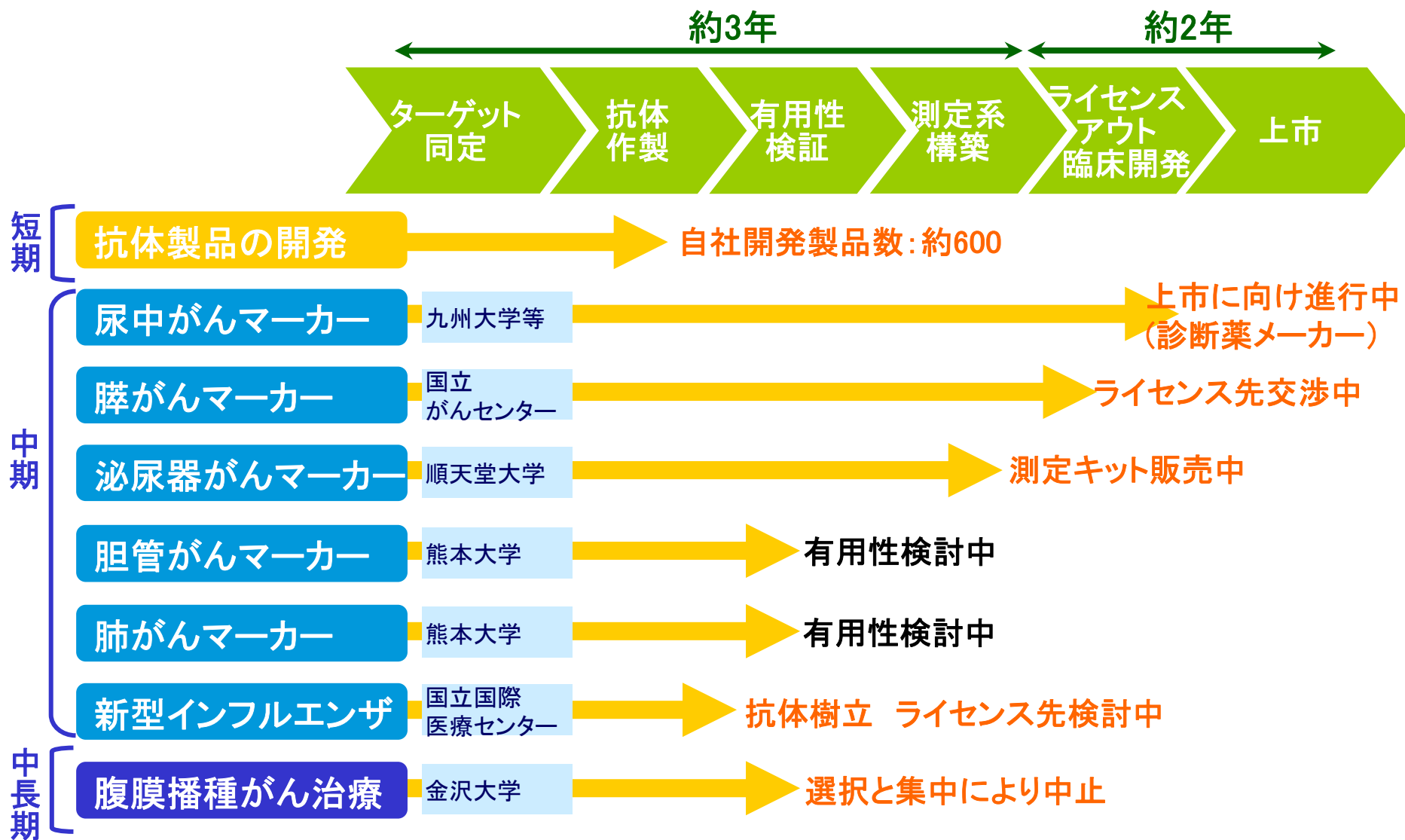
- 大学・研究機関等で同定された新規バイオマーカーに対し、GANP®マウス技術を用いて抗体を作製、その有用性検証
- バイオマーカーを診断薬に展開し、ライセンスフィー、マイルストーンフィーを獲得

## 中長期

創薬ターゲット  
探索関連

- 治療用抗体をはじめとする抗体医薬の開発
- 医薬品ライセンス収入を獲得

# 開発パイプライン状況



## 主要な特許の成立状況

### 尿中がんマーカー

『US7,700,741』

尿サンプルによる癌診断の測定系に関する特許が**米国**にて成立

2010年4月

### 膵がんマーカー

『JP4319700』

新規膵臓がんマーカーに対する抗体ならびにその診断応用に関する特許が**国内**で成立

2009年6月

### トラップマウス技術

『EP1201759』

トラップマウス技術に関する特許が**欧州**にて成立

2010年3月

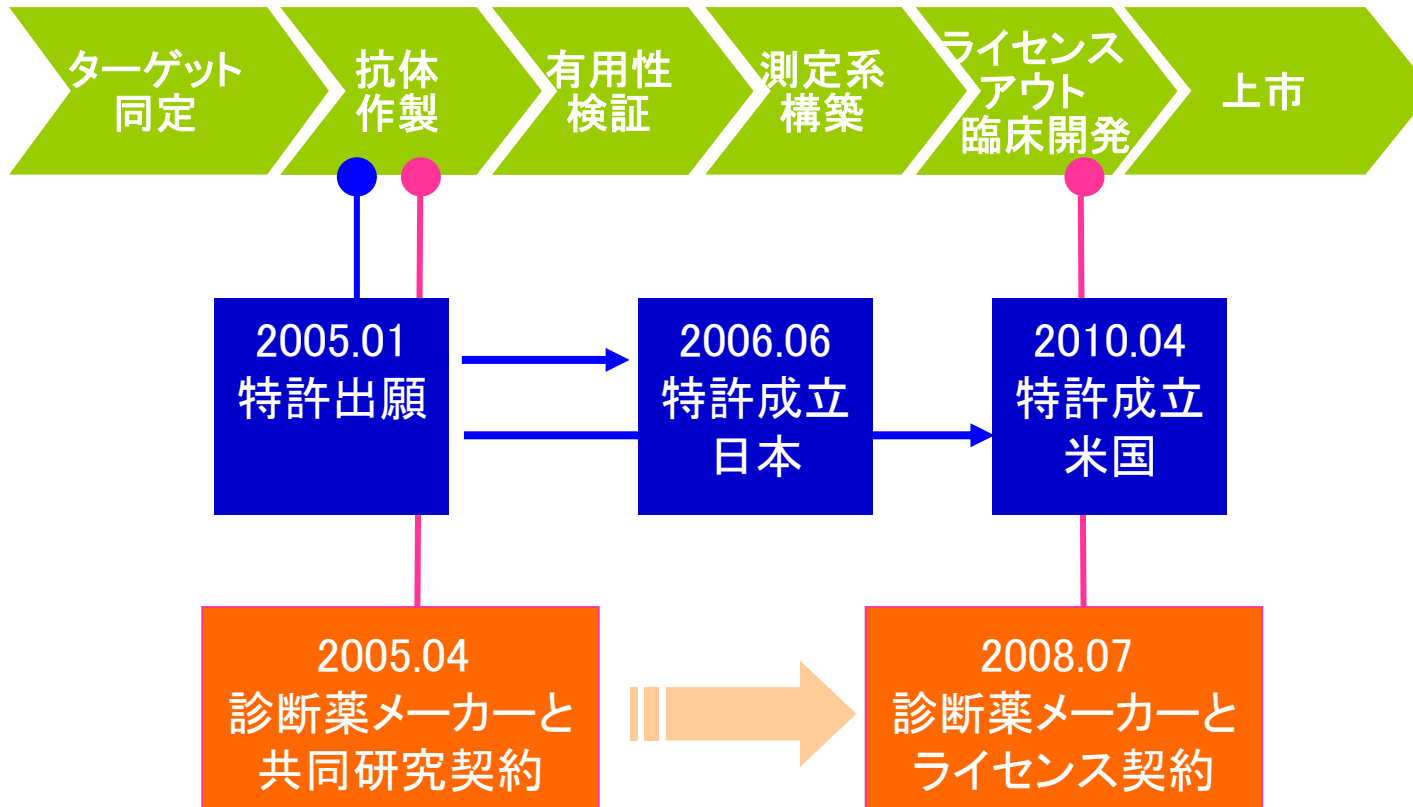
### GANP®マウス技術

『JP4478577』『JP4426728』『EP1559318』『KR941905』

GANP®マウス技術に関する特許が**日本、欧州、韓国**にて成立

2009年4月  
～2010年3月

# 開発パイプライン -尿中がんマーカー特許の経緯





# 開発パイプライン –膵がんマーカー

## ◆研究の概要および進捗

国立がんセンターにより同定された新規膵がんマーカーに対する抗体をGANP®マウス技術により作製し、膵がんマーカーの新規測定方法を確立

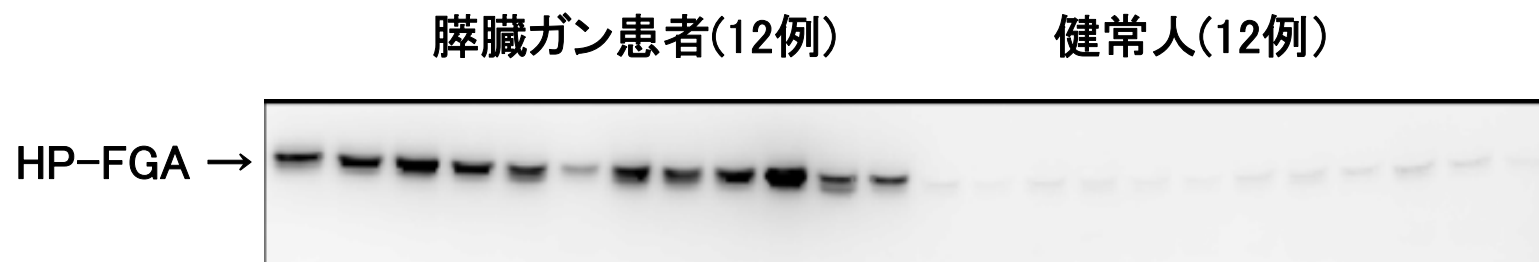
抗体作製	GANP®マウス技術により抗体を作製	終了	
有用性検証	臨床サンプルを用いて、ウエスタンブロット解析にて確認	終了	2009年6月 国内特許成立
測定系の構築	競合ELISA、サンドイッチELISA測定法検討	終了	有用性確認
臨床開発	診断薬メーカー向けデータの集積 ライセンスアウト先交渉中	進行中	

### 今後の予定

- ✓既存膵がんマーカー(CA19-9)との差別化を検証
- ✓診断薬メーカー向けデータの集積およびライセンスアウト

## ◆ 抗HP-FGA抗体の作製と特異性評価

- ✓ 2種類の抗原部位のうち、一種類の抗原部位に対する特異的認識モノクローナル抗体をGANP®技術により作製することに成功
- ✓ 上記の抗体を用いたウエスタン・ブロット解析の結果、膵がん患者の血漿中でHP-FGA蛋白の高発現が認められた



掲載元 雑誌名: J Biol Chem. 2009 Aug 20. 筆頭著者: 尾野雅哉

※HP-FGA: 水酸化フィブリノゲン $\alpha$

## ◆競合ELISA測定法の構築と臨床サンプル評価結果

✓国立がんセンター研究所保有の膵がん患者血漿100症例(ステージIA～IIB, ステージIII, ステージIV)と健常人血漿30症例を競合ELISA法により測定

➤有用性確認

## ◆実用化に向けた測定法の構築と臨床サンプル評価結果

◆ライセンスアウト交渉中

# 平成22年3月期 研究開発トピックス

4月

『GANP®マウス技術』特許が欧州にて成立

5月

第6回GPCR研究会にてランチョンセミナー開催

第56回日本実験動物学会総会にて成果を発表

6月

『新規膵臓癌マーカーに対する抗体ならびにその診断応用』特許が国内で成立

自社開発抗GPCR抗体の発売開始

7月

国立国際医療センターとの共同研究開発契約締結(新型インフルエンザ抗体)

日本ヒトプロテオーム機構第7回大会にて成果を発表

9月

自社開発AGEs測定キット発売開始

10月

ヒューマンサイエンス振興財団とのライセンス契約締結(膵臓癌マーカー関連)

第66回日本癌学会学術総会にて成果を発表

第82回日本生化学会大会にて成果を発表

11月

自社開発CD147測定キット発売開始

1月

「GANP®マウス技術」に関する特許が日本にて成立

抗GPCRモノクローナル抗体の発売について

当社のマウスを用いた研究成果が「FEBS Journal」に掲載

3月

第83回日本薬理学会年会にて成果を発表

「GANP®マウス技術」に関する特許が韓国にて成立

「トラップマウス技術」に関する特許が欧州にて成立



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<http://www.transgenic.co.jp>